

将来の大津中学校の後輩のためにできること

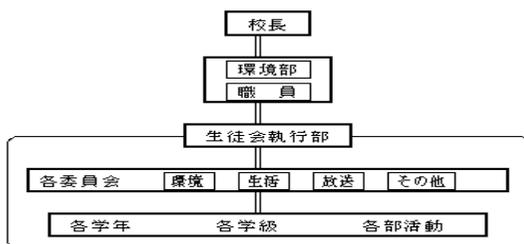
1 はじめに

本年度も、学校版 I S Oの活動として、「生徒が自ら考え行動することで環境にやさしい心を育むとともに、環境保全活動や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成する。」ことを目的に、環境 I S O活動宣言を行った。昨年の取組を継承し、本年度も「環境問題について、今私たちができることは何か」を考え、環境委員会を中心に話し合いながら活動している。

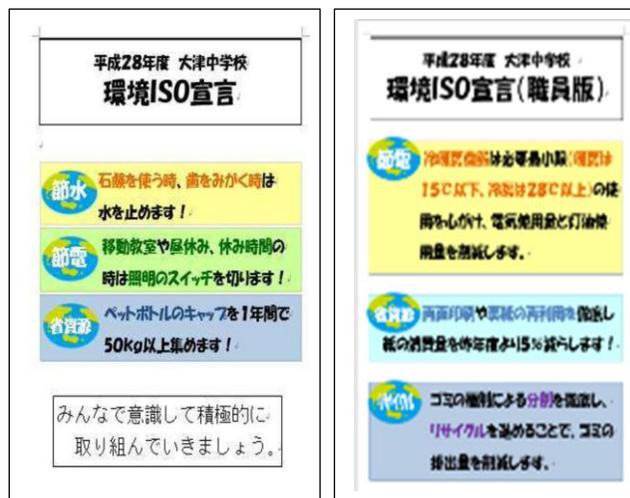
2 学校の実態

- ・移動教室での授業の際、電灯の消し忘れがある。
- ・手洗いや歯磨きの際、水を出し放しにしている。
- ・環境を守ることの大切さについての理解度は高いが、行動に移せていない。
- ・学校での学びが、生活で実践化されていない。
- ・職員もゴミの分別等ができていないことがある。

3 全体の組織



4 大津中学校版環境 I S O行動項目宣言



【数値目標】

- ・電気使用量 昨年度比 5%減
- ・水道の使用料 昨年度比 5%減

【行動項目設定の理由】

一昨年度 8月に全教室にエアコンが設置されたこともあり、昨年度は電気使用量に関する目標が達成できなかった。そこで、本年度はより一層節電に対する意識を高め、環境について考える機会としたいと考えた。また、水道使用量も昨年度は増加している。さらなる意識の向上と、節水に励みたい。また、一部の生徒や職員だけではなく、学校全体で取り組んでいくことを強化したいと考え、今年度の方針等を設定した。

5 行動の実際

環境委員会を中心に項目の設定と計画作成を行った。全校集会での宣言項目の発表後、掲示や朝の会での呼びかけで全体への周知を図った。また、「取組ができる大津中」から「いつでも誰でもできる大津中」へと取組を強化するために、昨年度に設定した「I S O強化週間」をさらに発展させた「とことん黙ってピカピカ大作戦」を今年度より設定した。毎掃除時間ごとに担当の先生と反省を行い、各個人及び学級の振り返りを帰りの会で行った。これにより、気づき、行動できる生徒が増え、全体の取組の強化につながった。

(1) 節電の取組

各学級へ呼びかけたり、生徒朝会で呼びかけをしたりするなどの活動で、意欲付けを図った。また、体育大会の練習など全校生徒が教室外で活動する際には、生活委員会による教室の点検等を行い、節電の徹底に学校全体で取り組んだ。

(2) リサイクルの取組

各クラスにリサイクルボックスを設置し、紙類の再利用活動を行っている。集めた廃紙類は、月例の環境委員会で回収・分別し、裏紙利用やリサイクルに出している。生徒にとって身近な教室で年間を通じてこの活動を行うことにより、生徒のリサイクルなどに対する意識を高めることができています。

また、職員室にも廃紙ボックスや裏紙専用の棚を設

置し、紙の使用量削減のために、裏紙利用やリサイクルの徹底をしている。ゴミ分別コーナーでは、紙類だけでなく、その他のゴミの分別も細かく行いゴミの減量と資源リサイクルに取り組んでいる。

(3) 無言清掃の徹底

昨年度から引き続き無言清掃は、「チャイムがなったら無言清掃。指示もだまって無言清掃。とことんだまって無言清掃。」を合言葉に、生徒も職員も一言もしゃべらず、心をこめて学校をきれいにする取組である。取組を始めて5年目になる。昨年度課題だった掃除への切り替えも、掃除中静かな音楽を流したり、職員が早めに動く等の工夫により、本年度は、チャイム前に掃除に取り掛かる光景が当たり前になった。この「無言清掃」を通して、生徒たちの掃除への自主性や、身の回りの環境に目を向け、気づき、美しく整える実践力を高めることができていると感じる。

(4) クリーン大作戦

「クリーン大作戦」は長く続く取組であり、年に4回、総合的な学習の時間を利用して取り組んでいる。「クリーン大作戦」とは、環境委員が中心となって、自発的に自分たちの学校環境を美しくしようとする態度を養うとともに、愛校心を深め、公共物等を大切にしようとする心を育む取組である。

取組では、各クラスの環境委員が中心となって計画し、第1回は教室の清掃を、第2回～4回は特別教室や外庭にも範囲を広げた。日頃の掃除時間ではできない蛍光灯の上やドアのレールなど隅々まで掃除をする。回数を重ねるごとに生徒たちの自主性は高まり、大変意欲的な生徒の姿があった。また、昨年度から「クリーン大作戦も無言」にチャレンジしている。しかし、

本年度の第1回では、掃除中に一部指示や確認の会話が生じたクラスが半数近くあった。そこで第2回以降は、第1回の反省を踏まえ、事前の確認事項等の練り直しを委員会で行うと共に、「準備・片付け・移動の時間も無言」という目標を設定し取り組んだ。その結果多くのクラスで無言の取組に成功し、生徒たちに達成感を味わわせたり、愛校心を育んだりすることができたと感じている。第3回、4回でも生徒たちの取組をさらに充実させていきたい。



活動の説明をする様子



蛍光灯を掃除する様子

(5) ボランティア掃除

部活動生によるボランティア掃除が、年間を通じて毎日行われている。また、年に1度全ての部活動生が集い、学校周辺の地域の清掃活動を行う「部活動ボランティア」も冬休みに行った。この取組により、地域の環境にも目を向け、地域の一員として貢献しようとする意欲を育むことができている。

(6) 生徒会の取組

《環境委員会》

環境委員会では、リサイクルボックスの回収、節電・無言清掃の呼びかけ、掃除道具の点検および補充、校内環境のチェック・修繕を定期的な活動としている。それ以外に、クリーン大作戦の計画、とことん黙ってピカピカ大作戦などを行っている。本年度より新たに設定したピカピカ大作戦では、掃除場所毎に担当

の教師が毎日評価を行う。その結果を踏まえて、次の日の掃除に取り組んでいる。また、班ごとの評価をクラスで集計し、一覧表に掲示することで、生徒の意欲につながっている。



《保健委員会》

保健委員会を中心に、環境委員会なども協力して、ペットボトルキャップ回収の取組を行った。朝、生徒昇降口で呼びかけ・回収を行い、たくさんのペットボトルキャップを集めることができた。目標の30kgを大幅に超える約50kgの回収ができた。この取組は、生徒の意識を高め、リサイクル活動を充実させただけでなく、家庭への啓発にもつながった。委員会でもまとめた活動報告は、文化発表会で展示し、回収しペットボトルキャップは、NGO団体に寄付をしている。



《生活委員会》

生活委員会では、自転車並べの取組を行っている。登校してきた生徒への呼びかけや一緒に並べる活動で、多くの自転車通学生が、次に使用する者への配慮を忘れず自転車小屋を利用できるようになった。さらに、校外で自転車を使用する際、活動先での自転車の置き方からも、その取組が習慣として身につけていることが分かる。

(7) P T Aとの連携

年に2回行われた「愛校作業」では、生徒・保護者・職員が協力し、校内の除草及び清掃活動を行った。日頃の清掃活動では行き届かない所も、三者の連携により美しく整備された。毎年約500kgの除草ができています。また、「花いっぱい運動」の取組として、P T Aの母親委員会と協力し、校内の花壇や鉢植えに花を植え、生徒たちの学習環境を花で彩り豊かにした。



校庭での美化作業の様子

保護者や地域の方と取り組むことで「学校—保護者—地域」の連携が深まりを増し、教育活動の充実につながった。

(8) 集団宿泊教室での環境学習

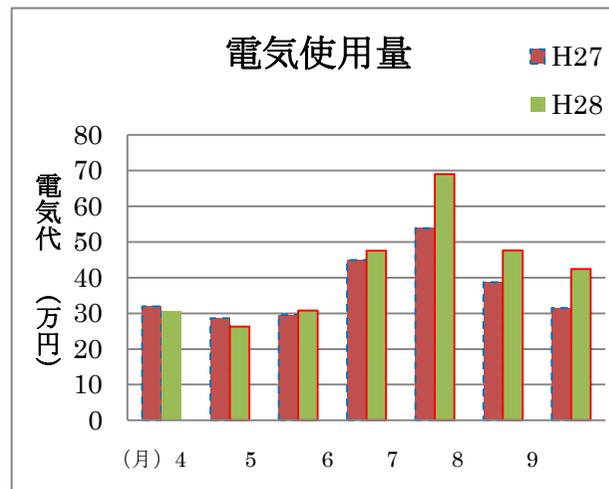
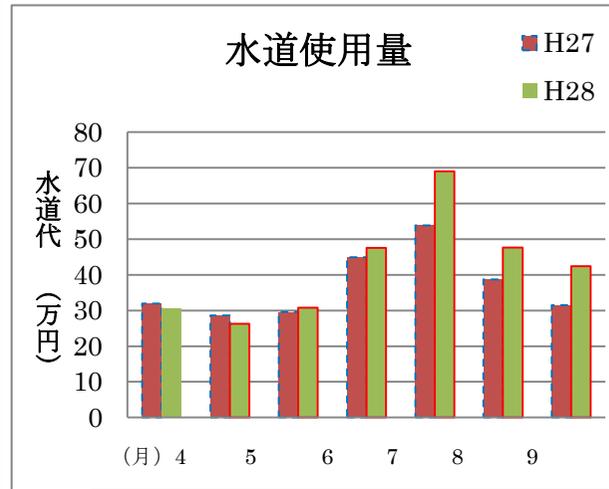
1年生は、芦北・水俣地域で集団宿泊教室を行った。

水俣の「環境センター」に行き環境について考えた。水俣での環境に対する取組を知り、自分でもできることはないかを実生活と重ねて考える姿が見られた。



環境センターでの学習の様子

6 記録



昨年度と比べると、今年度の電気使用量は全体的に上がる結果となった。熊本地震による夏場の課業日の増加と酷暑が影響していると考えられる。4月、5月の使用量が、昨年度より減少しているのは、熊本地震による休校が要因であると考えられる。

また、水道使用量については昨年度と比較すると大幅に増加している。しかし、熊本地震により、水道管

に漏水があったため、参考にはならない。

7 見直し（成果と課題）

(1) 成果

- ・学校全体で、様々な活動を通して環境問題を実感できる取組を行ったことで、生徒たちに環境を大切にすることを育まれている。
- ・環境委員を中心に、とことん黙ってピカピカ大作戦での取組を行ったことは、多くの生徒が身近な環境問題について真剣に考え、教室の美化など積極的に行動へ移すことにつながっている。

(2) 課題

- ・昨年度と比較して、電気使用量が全体的に上がっている。
- ・各委員会を中心に全校的に節電・節水の取組を行うなど生徒と職員全体での取組が必要である。

8. 今後の取り組み

- ・とことん黙ってピカピカ大作戦の取組を充実させ、生徒が主体的に活動できる取組を増やす。
- ・I S O活動の必要性や、環境保護に役立っている実感を得られるような掲示・放送等の工夫で、達成感を味わわせ、環境問題への意識を高める。
- ・もっと多くの委員会に学校版環境 I S Oに関する取組を設定してもらい、全校的に学校版環境 I S O活動に取り組める体制を作る。

